

事務事業名	全国シルバー人材センター事業協会参画事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6110					
			所属課室	観光商工課		課長名	朽原伸幸					
			所属担当	商工担当		担当者名	千野千代美					
基本政策	基本計画体系	II	にぎわいと活力あふれる都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
		10	労働環境の整備			01	一般	05	01	01	030	10
政策	17	就労の促進		事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☒ 義務化されている協議会等の負担金							
施策												
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 15 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）		法令根拠	なし								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 (社)全国シルバー人材センター事業協会負担金・・・厚生労働省所管の公益法人 事業内容の詳細は、定期総会議案書が送られてくる。これによると、 ①会員数100万人の目標達成に向けた事業活性化計画の推進。 ②連合会が地方自治体と連携し、教育、子育て、介護、環境の分野を重点とした事業の推進。				事業費の主な内訳（ 24年度 決算見込）							
					項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)	
					その他負担金		50					
									計		50	

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	シルバー人材センター、及びその連合体の振興、主に高齢者の雇用促進
25年度活動予定	シルバー人材センター、及びその連合体の振興、主に高齢者の雇用促進
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
シルバー人材センター	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていのか、どのように変えるのか)	
シルバー人材センターの円滑な運営	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
シルバー人材センターの自立	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア団体	数
イ	
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア団体	数
イ	
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア団体	数
イ	
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア団体	数
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	50	50	50	50	50		
	事業費計 (A)		千円	50	50	50	50	50	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2			
		延べ業務時間	時間	10	10	10	10	10			
		人件費計 (B)	千円	40	40	40	40	40	0	0	
		(A)+(B)		千円	90	90	90	90	90	0	0
活動指標		アイウ	数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
対象指標		アイウ	数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
成果指標		アイウ	数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			
上位成果指標		アイ	数	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0			

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	全国シルバー人材センター事業協会の設立・・・(1982年)昭和57年7月 会長・・・ 関 英夫 東京都江東区東陽3ー23ー22
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	シルバー人材センターの連合体であり、統括的な役割であるためシルバー人材センターの円滑な運営を維持するために機能強化事業の促進を図っていかなければならないと感じる。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	全国シルバー人材センター事業協会への負担金会計処理であり、意見はよせられていない。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☒ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過 (取り組みしていない場合はその理由)	全国シルバー人材センター事業協会への負担金であるため
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	この団体の会員について、調べたが、県内の自治体のほとんどが加入していた。

事務事業名	全国シルバー人材センター事業協会参画事業	所属部	農林商工部	所属課	観光商工課
-------	----------------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 市のシルバー人材センターの運営に整合している	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 県内の自治体のほとんどが加入しているが、必要性が不明である。が、市のシルバー人材センターの組織の運営補助的な役割をはたしている。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 協議会への負担金であるため適切である	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 協議会への負担金であるため向上余地はない。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 協議会への負担金であるため(山梨県県内の自治体は、会員となっている。影響なしであると断言できない。) ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 協議会への負担金であるため	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 協議会への負担金であるため未把握である。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 負担金の支払い業務であるため削減余地なし	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 山梨県内の自治体のほとんどが、この協議会の会員になっており協議会への負担金であるため公平・公正である。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	シルバーセンターが広域的に連携するための事業である。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☐</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☒</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について																								
① ② ③																								
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		(5) 事務事業優先度評価結果																						
① ② ③		成果優先度評価結果	対象外																					
		コスト削減優先度評価結果	対象外																					